

| | | | | | |
|--------|----------|-----|-----|---------|---------|
| 教科(科目) | 農業 (草花) | 単位数 | 4単位 | 学年(コース) | 2学年草花園芸 |
| 使用教科書 | 「草花」実教出版 | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | |

1 学習目標

| |
|--|
| <p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、草花の生産と経営に必要な資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> |
|--|

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|-----|----|-----------------|--|----|--------|---|---|---|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 一学期 | 4 | 草花生産と消費の動向 | ・草花園芸の特徴 ①草花生産と経営 ②草花の種類 ③草花の生産形態 | 24 | ○ | ○ | ○ | 主な実習内容 ・ほ場での観察と実習 ・シクラメン用土作り ・シクラメンポット上げ |
| | 5 | 中間考査 | | | ○ | ○ | | |
| | 6 | 草花の特徴と栽培技術 | ・草花生産と消費の動向 ①草花生産の動向 ②消費の動向 ・草花の生育と環境 ①草花の一生 ②根の生長と養分吸収 | 28 | ○ | ○ | ○ | ・ほ場での観察と実習 ・シクラメン鉢上げ ・秋花壇苗生産 (ビオラ・ハボタン等) |
| | 7 | 期末考査 | | | ○ | ○ | | |
| 二学期 | 8 | | ③シュートの成長と光合成 ④花芽分化と発達 ⑤生育開花調節と作型 | 16 | | | | ・ほ場での観察と実習 |
| | 9 | 鉢ものの生産 | ・鉢物生産の特色 ①鉢花 ・鉢花 | | ○ | ○ | ○ | ・シクラメンの葉組み |
| | 10 | | ②シクラメン | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 中間考査 | | | ○ | ○ | | |
| | 11 | 草花の特徴と栽培技術 (続き) | ・鉢花 ②シクラメン ・品種改良と繁殖 ①草花の品種と品種改良 ②品種改良の手順と方法 | 44 | ○ | ○ | ○ | |

| | | | | | | | | |
|-------------|----|--------------------|------------------------------|----|---|---|---|------------|
| | 12 | | ③草花の繁殖方法 ④種子繁殖 | | | | | |
| | | 期 末 考 査 | | | ○ | ○ | | |
| 三 学 期 | 1 | 草花の特徴と栽培技術 (続き) | ⑤栄養繁殖 | 24 | ○ | ○ | ○ | ・ほ場での観察と実習 |
| | 2 | | ・草花の生育と栽培環境 ①草花の生育と土・水・肥料 | | ○ | ○ | ○ | ・花壇苗の生産管理 |
| | 3 | | ②草花の栽培管理 | | | | | |
| | | 学 年 末 考 査 | | | ○ | ○ | | |

計 140 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

| | | | |
|-----------|---|--|--|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の 観点 | 草花の繁殖、栽培管理など草花に関する基本的な知識や技術を習得する。 | 草花の繁殖や栽培管理などについて思考を深め、それぞれの課題を適切に判断するとともに、合理的に解決し、表現する能力を身につけている。 | 草花の繁殖、栽培管理、利用などに興味や関心を持ち、草花に関する知識、技術の習得に意欲的に取り組むとともに、自ら積極的に取り組む態度を身につけている。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポート等の取り組み状況・内容確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポートなどの取り組み状況・内容確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票の分析 ・学習状況の観察 ・レポートなどの取り組み状況・内容確認 ・ノートの記述 などから、評価します。 |

※ 領域ごとの授業時数合計

| | | | |
|-----------------|-----------------------|------------------|------------------|
| 領域ごとの 授業時数合計 | A「話すこと・聞くこと」 25 時間 | B「書くこと」 30 時間 | C「読むこと」 15 時間 |
|-----------------|-----------------------|------------------|------------------|

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

4 課題・提出物等

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ レポートや課題の作成、提出 ・ ノートの記述、提出 ・ |
|---|

5 担当者からの一言

| |
|---|
| <p>草花の栽培について全般的に学習し、基本的な知識を持ち、実践できるまでを目標とします。基本的な知識・技術を身につけるため、シクラメンを中心とした用土作りや各種栽培管理、販売までを一貫して学習します。</p> |
|---|

| | | | | | |
|--------|----------|-----|-----|---------|-----------|
| 教科(科目) | 農業（総合実習） | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 2学年草花園芸専攻 |
| 使用教科書 | | | | | |
| 副教材等 | | | | | |

1 学習目標

| |
|--|
| <p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> |
|--|

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 | | |
|---------|----|---------------------------------|--|----|--------|---|---|---|---|--------------------------|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | | | |
| 一学期 | 4 | 花壇用苗物・鉢花の生産管理 鉢花の生産計画作成 | ・花壇用苗物のポット上げ ・鉢花の生産管理 ・鉢花の播種・育苗 ・シクラメンのポット上げ、追肥、 | 26 | ○ | ○ | ○ | 複数の花壇苗や鉢花の栽培管理、販売実習を通年おこなう。 | | |
| | 5 | 鉢花の活用、鉢花の生産 草花の活用 | かん水 ・鉢花のポット上げ・鉢上げ ・鉢花の販売 | | | | | | 中核鉢花であるシクラメンの栽培管理を通年行うことで、草花の栽培に必要な知識と技術を身につける。 | |
| | 6 | 花壇の植え込み | ・プランターへの植え込み・設置 ・花壇の設計・施工 | | | | | | | |
| | 7 | 鉢花の生産管理 夏季の草花管理 | ・鉢花の品質管理・販売・出荷 ・用土づくり、用土詰め | | | | | | | |
| 期 末 考 査 | | | | | | | | | | |
| 二学期 | 8 | 鉢花の生産管理 秋まき1年草の栽培管理 花壇の作成 | ・秋・冬用草花の播種・育苗 (プリムラ類、サイネリア、ビオラ、デージー、シロタエギクなど) | 30 | ○ | ○ | ○ | ・サクラソウ科の植物やパンジー、ビオラなどの秋から冬にかけて栽培する草花の播種および管理。 | | |
| | 9 | 観葉植物の繁殖 シクラメンの栽培管理 | ・高温期の草花の生産管理 ・秋・冬用草花の品質管理と | | | | | | 生産量の多い草花の箱まき体験と育苗技術の習得。 | |
| | 10 | シクラメンの寄せ植え作成 シクラメンの販売 | 販売・出荷 ・スパティフィラムの株分け | | | | | | | 葉組みやジベレリン処理など品質向上に向けた実習。 |
| | 11 | | ・シクラメンの葉組み、植物ホルモンの散布、殺菌剤の散布 | | | | | | | |
| | 12 | | ・シクラメン、ビオラなどの冬の花を用いた寄せ植えの作成および地域との交流活動 ・シクラメンの栽培特性を習得し、販売実習をおこなう。 | | | | | | | |
| | | ・用土づくり、用土詰め | | | | | | | | |
| 期 末 考 査 | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|---|----------------------|--|----|---|---|---|--------------------------------------|
| 三 学 期 | | 春の花壇苗、鉢花の準備 施設の活用 | 春用草花の播種・育苗 (ジニア、ペゴニア、マリーゴ ールド、サルビア) | 14 | ○ | ○ | ○ | 地域へ供給する花壇苗 や課題研究で利用する 植物の栽培管理。 |
| | 1 | 鉢花の活用 | 科目「草花」、「課題研究」と連 携し、鉢花の管理能力と利用法 について技量を高め、次年度へ の準備をおこなう。 | | | | | |
| | 2 | 花壇用草花の生産管理 | | | | | | |
| | 3 | まとめ | | | | | | |
| 学 年 末 考 査 | | | | | | | | |

計70時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

| | | | |
|-----------|---|--|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の 観点 | 草花の生態を理解しようとしてい る。各実習の目的と理由を理解し、 その方法・技術を身につけようと している。 | 草花の生理・生態について正しく理 解し、それに伴う管理技術のポイン トを判断できる。またその判断を相 手に伝えようとしている。 | 草花の生態や管理について興味関 心を持ち、主体的に調べ、また実習 に意欲的に取り組む姿勢が見られ る。 |
| 評価方 法 | 以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・実習での成果 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言 ・レポートの作成 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・実習での発言や取り組み態度 ・効率的・精確な実習 ・レポートの提出状況 などから、評価します。 |

4 課題・提出物等

・レポート・課題の作成・提出

5 担当者からの一言

鉢花は多様な種類があり、栽培・繁殖方法も多岐にわたります。花の種類に応じた管理が求められます。鉢花はハウスなどの施設を使い分ける、生育状態に報じた施肥など、植物の状態をよく観察する力が大切になります。また、販売や土づくりなど協力する力が効率よく実習を行う上で求められます。

長期休業中の実習も行います。意欲的に授業に参加し、積極的に学習成果を外部へ発信することで、確実に学習効果が上がると思います。そんな姿勢で授業に臨んでほしいと思っています。

| | | | | | |
|--------|------------|-----|-----|---------|---------|
| 教科(科目) | 農業 (生物活用) | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 2学年草花園芸 |
| 使用教科書 | 「生物活用」実教出版 | | | | |
| 副教材等 | | | | | |

1 学習目標

| |
|--|
| <p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、園芸作物の活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1)生物活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)生物活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3)生物活用について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> |
|--|

2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|-------|-------------|--------------------|-----------------------------------|----|--------|---|--------|---------------------------------|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 一学期 | 4 | 生物活用の意義と役割 | ・生物活用の意義と役割 ・植物・園芸と人間生活 | 12 | ○ | ○ | | 主な実習内容 ・大型プランターの作成 ・花壇苗管理 |
| | 5 | 生物を活用とした療法 | ・生物を活用とした療法 | | | | ○ | |
| | 中間考査 | | | | | ○ | ○ | |
| | 6 | 園芸作物と栽培 | ・草花の栽培と活用 ①草花の種類と特性 ②園芸デザイン | 14 | ○ | ○ | ○ | ・草花の寄せ植え |
| | 7 | 期末考査 | | | | | ○ | ○ |
| 二学期 | 8 | 園芸作物の栽培と活用 | ③花壇の活用と管理 ④室内園芸装飾 ⑤フラワーデザイン | 16 | | | | ・花壇苗管理 |
| | 9 | 生物活用の実際 | ・交流活動の実施 ①交流活動の実施の流れ ②計画の立案 | | ○ | ○ | ○ | ・交流活動の準備 |
| | 10 | | | | ○ | ○ | | |
| | 中間考査 | | | | | ○ | ○ | |
| | 11 | 園芸作物の栽培と活用 (続き) | ②活動のまとめ | 14 | ○ | ○ | ○ | ・黒崎花壇植え込み |
| | 12 | | ・草花の栽培と活用(続き) ⑥地域緑化、都市緑化 | | ○ | ○ | ○ | ・シクラメン寄せ植え |
| 期末考査 | | | | | ○ | ○ | | |
| 三学期 | 生物活用の実践(続き) | ②活動のまとめ | 14 | ○ | ○ | ○ | ・花壇苗管理 | |
| | 園芸作物の栽培と活用 | ・野菜・ハーブの栽培と活用 | | | | | ・寄せ植え | |
| 学年末考査 | | | | 70 | ○ | ○ | | |

計70時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

| | | | |
|-------|---|---|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の観点 | 園芸作物の繁殖、栽培管理など園芸作物に関する基本的な知識や技術を身につけている。 交流活動やその事例を通して、園芸活動が生活を豊かにし、人の身体や精神回復に役立っていることを理解している。 | 園芸作物の栽培や管理に関して思考を深め、それぞれの課題を適切に判断するとともに、合理的に解決し、表現する能力を身につけている。 | 園芸作物の生産性や品質向上のために自ら考えて取り組むことができる。 園芸活動を活用した交流活動など園芸作物の活用に関心をもち、意欲的に取り組むことができる。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポートなどの記述状況や内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポートなどの記述状況や内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票の分析 ・学習状況の観察 ・レポートなどの記述状況や内容の確認 などから、評価します。 |

※ 領域ごとの授業時数合計

| | | | |
|--------|---------------|----------|----------|
| 領域ごとの | A 「話すこと・聞くこと」 | B 「書くこと」 | C 「読むこと」 |
| 授業時数合計 | 25 時間 | 30 時間 | 15 時間 |

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

4 課題・提出物等

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ レポート・課題の作成、提出 ・ ノートの記述、提出 ・ |
|---|

5 担当者からの一言

| |
|--|
| <p>園芸作物の活用方法について、その特性や栽培技術、活用を体験的に学習します。さらに校外活動や寄せ植え体験講座などの学習を通して、園芸作物の活用に必要な知識と技術を身につけます。植物や動物を効果的に活用することは、私たちの生活の質の向上や健康の改善の向上に必要であることを理解していきましょう。</p> |
|--|

| | | | | | | | | |
|-------------|------|----------------------|--|----|---|---|---|--------------------------------|
| | 中間考査 | | | | | | | |
| | 11 | 草花の特徴と栽培技術 | 草花の生育と環境 花序・日長 | 28 | ○ | ○ | ○ | ○球根類の定植 ○球根類の採花 ○施設の防寒対策 |
| | 12 | 球根類栽培実習 施設の寒害対策 | 電照栽培とシェード栽培 植物生長調節物質 ダッチアイリス、フリージア | | | | | |
| | 期末考査 | | | | | | | |
| 三 学 期 | 1 | 草花の特徴と栽培技術 | 品種改良と繁殖 生育開花調節と作型 | 28 | ○ | ○ | ○ | |
| | 2 | 1・2年草栽培実習 球根類栽培実習 | ユリ、チューリップ | | | | | |
| | 3 | 草花の特徴と栽培技術 | 種子繁殖 栄養繁殖 | | ○ | ○ | ○ | ○キクの挿し穂・挿し芽 による苗の増殖 |
| | | 1・2年草栽培実習 球根類栽培実習 | ストック、キンギョソウ、 スターチス、ヤグルマギク | | | | | |
| 学年末考査 | | | | | | | | |

計140時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

| | | | |
|-----------|---|---|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の 観点 | 草花に対する知識・技術を身に付けようとしているか。 | 草花を観察し、花や葉の違いや分類による違いを身に付けようとしているか。 | 草花を通じて積極的に他者と関わり、進んで実習に取り組んでいるか。 |
| 評価 方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・実習での成果 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言 ・レポートの作成 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・授業での発言や取り組み態度 ・実習での効率的な取り組み態度 ・ノートの提出状況 などから、評価します。 |

4 課題・提出物等

- ・ノートの記入・提出
- ・レポート・課題の作成・提出
- ・

5 担当者からの一言

草花の特徴を理解し、栽培、管理の基本的な知識・技術を学びます。販売等の実習を通して切り花の生産から商品としての特性までの基本となる知識・技術を学びます。

(担当：)

| | | | | | |
|--------|------------|-----|-----|---------|-------------------------|
| 教科(科目) | 農業（生物活用） | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 2学年 環境科学科 フラワーデザイン専攻 |
| 使用教科書 | 実教出版「生物活用」 | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | |

1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、園芸作物や社会動物の活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生物活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 生物活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 生物活用について生物の特性を活用し生活の質の向上につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|----|--------------|---|---|----|--------|---|---|---|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 1 | 4 5 | オリエンテーション | ・年間の授業計画、評価方法、施設や備品の使用に関するルール等を理解する。 | 1 | ○ | | | プリント(記述の確認) |
| | | 第1章 1 生物活用の意義と役割 | ・生物を活用することにより、人間の生活の質を向上させることができることを理解する。 | 10 | ○ | ○ | ○ | 基礎的技術の習得の点検 実習の様子 (行動の確認) |
| | | 第2章 園芸作物の栽培と活用 2 草花の栽培と活用 3 野菜・ハーブの栽培と活用 | ・季節のアレンジメント作製を通して、フラワーデザインの基礎的な知識と技術を身につける。 ・さまざまなハーブの利用方法の実践を通して、ハーブに対する理解を深め、さらに自ら活用できる基本的な技術を身につける。 | 1 | ○ | ○ | ○ | レポート・プリント(記述の確認) |
| | 6 7 | 定期考査（1学期中間） | | 1 | ○ | | | |
| | | 第4章 生物活用を活用した療法 1 生物を活用した療法 2 園芸療法 | ・生物を活用した様々な療法について理解する。 ・園芸療法の効果や概念、対象や特徴などを理解する。 | 13 | ○ | ○ | | 基礎的技術の習得の点検 実習の様子(行動の確認) レポート・演習プリント(記述の確認) |
| | | 定期考査（1学期末） | | 1 | ○ | ○ | | |
| 2 | 8 9 10 | 第5章 生物活用の実践 1 交流活動の心がまえ 2 交流活動の実際 | ・交流活動を行うにあたっての事前準備を通して、園芸療法やその対象に対する理解をさらに深める。 | 13 | ○ | ○ | | 基礎的技術の習得の点検 実習の様子(行動の確認) レポート・プリント(記述の確認) |
| | | 第1章 生物活用の意義と役割 2 生物活用とプロジェクト学習 | ・活動目標の設定、計画の立案、実施、評価・反省をもとに次への改善策を考える過程を通して、プロジェクト学習の方法を身につける。 | 1 | ○ | ○ | ○ | |
| | | 定期考査（2学期中間） | | 1 | ○ | ○ | | |
| | 10 | 第3章 | ・人間と動物がどのようにかわつ | 15 | ○ | ○ | | 基礎的技術の習得の点検 |

| | | | | | | | | |
|---|----|-------------------------|--|----|---|---|----------------------------------|---|
| | 11 | 動物の飼育と活用 | てきたかを理解する。 | | | | 実習の様子(行動の確認) レポート・プリント(記述の確認) | |
| | 12 | 1 動物と人間生活 2 イヌの飼育と活用 | ・動物とのふれあいがもたらす、さまざまな効用を理解する。 ・イヌの飼育と管理方法について学ぶ。 | | ○ | ○ | | |
| | | 定期(中間・期末) 考査 | | 1 | | | | |
| 3 | 1 | 第2章 | ・タイの伝統文化であるベジタブル・フルーツカービングの実践を通して、ナイフの使い方など基礎的な技術を習得すると同時に、他国の文化を尊重する姿勢を身につける。 | 13 | ○ | ○ | ○ | 基礎的技術の習得の点検 実習の様子(行動の確認) レポート・プリント(記述の確認) |
| | 2 | 園芸作物の栽培と活用 | | | | | | |
| | 3 | 3 野菜・ハーブの栽培と活用 | | | | | | |
| | | 定期(学年末) 考査 | | 1 | | | | |

計 70時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

| | | | |
|-------|---|---|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の観点 | ・私たちの暮らしと植物および動物の関係について興味・関心を持ち、これらの利用や活用について基礎的な知識と技術を身につけている。 | ・植物や動物の活用が、人間の生活の質を向上させることができることを理解し、生物の活用がもたらす人間への効用について思考を深める。 | ・植物や動物の活用の重要性や活用がもたらす人間への効用について興味・関心を持ち、人間と生物との関係について探求しようとしている。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。 |

4 課題・提出物等

- ・ プリントやレポート、作品などの提出物があります。

5 担当者からの一言

「生物活用」の授業では、植物や動物の活用について実践的に学び、基礎的な知識や技術を身につけます。これからの生活の中で、植物や動物を効果的に活用することにより、私たちの生活が潤い、健康的で、幸せな生活に発展することを目指していきましょう。

| | | | | | |
|--------|----------|-----|-----|---------|-------------|
| 教科(科目) | 農業（総合実習） | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 2学年フラワーデザイン |
| 使用教科書 | | | | | |
| 副教材等 | | | | | |

1 学習目標

| |
|--|
| <p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> |
|--|

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|---------|---------|----------------------------------|--|----|--------|---|---|----|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 一学期 | 4 | 春まき1年草播種 キク挿し芽 切り花の定植準備 | アスター、ベニバナの播種 秋ギク挿し芽 施肥、耕耘、畝成形、マルチ、 土壌消毒 | 26 | ○ | ○ | ○ | |
| | 5 | 春まき1年草、夏ギク等の定植 球根類の定植 栽培管理 | アスター、トルコギキョウ、 夏ギク等の定植 グラジオラス等の定植 | | | | | |
| | 6 | 秋ギク等の定植 | 追肥、灌水、摘芯、整枝、摘蕾、 病虫害防除 | | | | | |
| | 7 | 春まき1年草等の採花、 販売 | 秋ギク等の定植 ベニバナ、ヒマワリ等の採花・ 花組、販売 | | | | | |
| 期 末 考 査 | | | | | | | | |
| 二学期 | 8 | 春まき1年草、夏ギクの採花・花組、販売 | アスター、夏輪ギク、夏小ギクの採花・花組、販売 | 30 | ○ | ○ | ○ | |
| | 9 | 秋まき1年草の播種 ユリ等の球根堀上げ | ストック、キンギョソウ、 スターチス等の播種 ユリ、グラジオラス等の球根の堀上げ、保管・低温 | | | | | |
| | 10 | 秋まき1年草の定植 | ストック、キンギョソウ、 スターチス等の定植 | | | | | |
| | 11 | 球根類の定植 | チューリップ、フリージア、 ダッチアイリス等の定植。 | | | | | |
| | 12 | 栽培管理 | 追肥、灌水、保温シート、 病害虫防除。 夏ギクの挿し穂1次 | | | | | |
| | 期 末 考 査 | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|---|----------------------------------|---|----|---|---|---|--|
| 三 学 期 | 1 | 栽培管理 チューリップ、秋まき1年 草等の採花、販売 | 追肥、灌水、加温、病害虫防除。 植物ホルモン剤の利用 キンギョソウ、チューリップ、 ダッチアイリス、ストック等 の採花・花組、販売 | 14 | ○ | ○ | ○ | |
| | 2 | | | | | | | |
| | 3 | 学 年 末 考 査 | | | | | | |

計70時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

| | | | |
|-----------|---|---|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の 観点 | 草花の生態を理解しようとしている。各実習の目的と理由を理解し、その方法・技術を身につけようとしている。 | 草花の生理・生態について正しく理解し、それに伴う管理技術のポイントを判断できる。またその判断を相手に伝えようとしている。 | 草花の生態や管理について興味関心を持ち、主体的に調べ、また実習に意欲的に取り組む姿勢が見られる。 |
| 評価 方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・実習での成果 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言 ・レポートの作成 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・実習での発言や取り組み態度 ・効率的・正確な実習 ・手帳の提出状況 などから、評価します。 |

4 課題・提出物等

- ・手帳の記入・提出
- ・レポート・課題の作成・提出
- ・

5 担当者からの一言

切り花の播種から栽培管理、さらに採花から販売までを一貫して学習します。植物を相手にする授業なので、長期休業中や放課後も圃場に足を運び、草花の状況を観察し、次回の実習に備える姿勢を身につけて欲しいです。

(担当 :)

令和6年度シラバス（農業）

学番25 新潟県立新発田農業高等学校

| | | | | | |
|--------|----------------|-----|-----|---------|-------------------------|
| 教科(科目) | 農業（造園施工管理） | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 2学年 環境科学科 地域環境デザイン専攻 |
| 使用教科書 | 造園施工管理（東京電機大学） | | | | |
| 副教材等 | 配付プリント | | | | |

1 学習目標

緑地環境や造園空間の機能と造園が果たす社会的な役割を理解し、必要な知識と技術を習得させ、造園の特質を理解させるとともに、合理的な施工や維持管理する能力と態度を育てる。

2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|---------|------------------------|---|---|----|---|---|---|---|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 1 学期 | 4 | ◎造園技術で扱う道具について | ・造園技術で扱う道具についてスケッチなどを行う。 | 21 | ○ | | ○ | ○造園樹木の掘取り、根巻き、移植実習 ○校地内樹木の剪定・刈り込み実習 ○3級造園技能士検定の実技練習 (8月実技試験) |
| | 5 | ◎造園施工管理の意義と役割 1 社会環境と造園施工管理 | | | ・日本庭園等の作庭技術を理解し、これらの造園施工管理の特色と役割について学習する。 | ○ | ○ | |
| | 6 | 定期考査（1学期中間） | | | | | | |
| | 7 | 2 造園施工管理の意義 3 施工管理の特色と役割 4 造園空間の新たな管理手法 ◎造園材料の種類と特性 1 石材 (1)岩石の種類 定期考査（1学期期末） | (テスト返却、解答、復習) ・各種造園材料の持つ特性を理解し、造園空間の目的に応じた活用ができるように学習を進める。 | | ○ | ○ | ○ | |
| 2 学期 | 8 | (2)自然石材 | (テスト返却、解答、復習) | 5 | ○ | ○ | ○ | |
| | 9 | (3)加工石材 2 木材・竹材 (1)木材 (2)竹材 | | | | | | |
| | 10 | 定期考査（2学期中間） | | | | | | |
| | 11 | 3 金属材料・コンクリート材料、コンクリート二次製品、窯製品、そのほかの造園材料 | ・各種造園材料の持つ特性を理解し、造園空間の目的に応じた活用ができるように学習を進める。 | | ○ | ○ | ○ | |
| 12 | 定期考査（2学期期末） ◎造園土木施工 | (テスト返却・解答・復習) | 5 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|---|---------------|-------------------------------------|----|---|---|---|------------------------|
| | | 1 敷地の造成と土壌の改良 | ・既存の景観を考慮しつつ、造園的な意匠を取り入れた造園計画を学習する。 | | | | | |
| 3 学 期 | 1 | 学年末考査 | | 14 | ○ | ○ | ○ | ○ロープワーク実習 ○道具の手入れ実習 |
| | 2 | ◎まとめ | ・一年間の復習とまとめ | | ○ | ○ | ○ | |
| | 3 | | (テスト返却・解答・復習) | | | | | |

計 70時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

| | | | |
|-----------|---|---|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の 観点 | ・造園計画・設計の特性を理解し、目的に沿った製図実習等を行っている。 ・授業内容を応用し、計画・設計作業に対し、しっかりと技術が身につけている。 | ・植生材料の生態を理解し、計画・設計の正しい判断ができる。 | ・植生材料の生態を理解し、計画・設計の正しい判断ができる。 |
| 評価 方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。 |

4 関連する検定、課題・提出物等

- ・造園技能検定 造園施工管理技術検定 トレース技能検定 レタリング検定
- ・プリントやレポートなどの提出物があります。

5 担当者からのメッセージ

- ①指定の実習服、長靴等の着用を徹底するとともに、時間を厳守すること。
- ②季節的または天候により、授業内容に変更を生ずることがある。
- ③天候不良時(小雨)でも実習をすることがある。(雨具を個人で用意する。)
- ④樹木、庭園を通しての造園の美学、物づくりの楽しさ、素晴らしさを体験し、さらには緑の保全、地球規模の環境問題にも興味関心を発展させていくことを希望する。
- ⑤造園技術を合理的に学習するため、造園の施工、管理と緑化植物の育成、管理を並行して学習することがある。

| | | | | | |
|--------|----------|-----|-----|-------------|-------------------------|
| 教科(科目) | 測量 | 単位数 | 2単位 | 学年 (コース) | 2学年 環境科学科 地域環境デザイン専攻 |
| 使用教科書 | 実教出版『測量』 | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | |

1 学習目標

測量に必要な知識と技術を習得させ、測定機器の特質と地理的空間情報の処理と利用について理解させるとともに、環境保全や農林業に応用する能力と態度を育てる。

2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|----|----------------|---|--|----|-------------|-------------|---|-------------------|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| | 4 5 | 測量を学ぶにあたって 第1章 距離測量 (1)距離測量用器具 (2)距離の測定 (3)測距器械による距離の測定 | ・測量技術は私たちの生活をさせていることを理解する。 ・距離の概念を理解させ、距離測量の器具や実際の測距方法について学ぶ。 | 8 | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ | 巻尺の各種補正計算ができる |
| | 1学期中間考査（返却を含む） | | | 2 | ○ | ○ | | |
| | 6 7 | 第4章 細部測量 (1)平板測量の器具 (2)平板測量の方法 (3)平板を用いた細部測量 | ・セオドライトの構造を理解し、すえつけ操作を習得させる。 ・各測角方法を理解し、その方法を実習するとともに誤差について理解する。 ・骨組測量としての道線法を理解する。 ・細部測量としてのオフセット法を理解する。 | 16 | ○ | ○ | ○ | 授業時間のおおよそ半分を実習とする |
| | 1学期末考査（および返却） | | | 2 | ○ | ○ | | |
| | 9 10 | 第5章 水準測量 (1)水準測量の用語 (2)水準測量の器械・器具 (3)レベルの検査・調整 (4)水準測量の方法 | ・レベルの種類、構造を理解する。 ・水準測量の器械・器具の取扱について実習し、実際の測量方法を理解する。 | 14 | ○ | ○ | ○ | 授業時間のおおよそ半分を実習とする |
| | 2学期中間考査（および返却） | | | 2 | ○ | ○ | | |
| | 11 12 | 第7章 面積および体積 (1)面積の計算 第9章 地形測量 (1)地形図 (2)地形測量の順序 | ・計算過程とその理論を理解し、適切な計算方法を身に付ける。 ・地形測量が、各測量の総合的な測量であることを理解する。 | 14 | ○ | ○ | ○ | 三角区分法、座標法による計算 |
| | 2学期末考査（および返却） | | | 2 | ○ | ○ | | |
| | 1 2 | 第13章 測量技術の応用と自然災害 (1)地理情報システム (GIS) (2)測量技術と自然災害 | ・コンピュータを用いて、GSI環境を体験し学びを深める。 ・GSIを活用できる技術を身につける。 | 10 | ○ | ○ | ○ | iPad、CADパソコンを活用 |
| | 3学期末考査（および返却） | | | 2 | ○ | ○ | | |

計 70時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

| 評価は次の観点から行います。 | | | |
|----------------|---|---|--|
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の観点 | 測量に関する基礎的・基本的な知識・技術を習得し、測量技術を探求する方法を習得できている。 | 測量に関する知識と技術を活用して適切な判断を行い、導き出される考え方を的確に表現することができる。 | 測量に関心や探求心をもち、実習において自ら積極的に役割を担い、主体的に取り組むことができる。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・測量成果レポート などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・測量成果レポート などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・測量成果レポート ・学習課題レポート ・実習に取り組む態度 などから、評価します。 |

4 課題・提出物等

- ・ 平板測量、水準測量では、班に分かれて実習し図面や成果票を作成、提出します。
- ・ 測量成果を計算するためにコンピュータを活用し、その結果を提出します。

5 担当者からの一言

あらゆるインフラストラクチャー（道路、建物、橋梁、鉄道、港湾、ダム、公園、農地 etc）を整備するための出発点は測量です。ここでは、幅広い分野で活用される測量技術を学びます。スマートフォンの位置情報、地図サービスなども測量技術の一部です。

| | | | | | |
|--------|---------------|-----|-----|-------------|-------------------------|
| 教科(科目) | 地域資源活用 | 単位数 | 2単位 | 学年 (コース) | 2学年 環境科学科 地域環境デザイン専攻 |
| 使用教科書 | 実教出版『グリーンライフ』 | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | |

1 学習目標

地域資源を有効に活用する活動に必要な知識と技術を習得させ、農業や農村の持つ多面的な機能と対人サービスの特性を理解させるとともに、交流、余暇活動を導入した経営の改善を図る能力と態度を育てる。

2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|---------|----|-------------------------|---|----|--------|---|---|---|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 1 学期 | 4 | 第1章 グリーンライフとは | ・人間生活とグリーンライフ ・農山村と都市の現状と変化 | 8 | ○ | | | ○グリーンライフの必要性について学習します。 |
| | 5 | 1学期中間考査 (および返却・解説) | | 2 | ○ | ○ | | |
| | 6 | | ・地域社会の変化と社会的起業活動 ・グリーンライフ推進のための方策 | 12 | ○ | | | ○グリーンライフの動向、実践例について学習します。 |
| | 7 | | 1学期末考査 (および返却・解説) | | 2 | ○ | ○ | |
| 2 学期 | 9 | 第2章 農林業・農山村の魅力と地域づくり | ・農林業・農山村の魅力 ・身近な地域資源の発見と活用 | 16 | ○ | | | ○地域資源の利活用方法について学びます。 ○地域農産物の活用例を学びます。 |
| | 10 | | 2学期中間考査 (および返却・解説) | | 2 | ○ | ○ | |
| | 11 | | ・農山村の資源と景観の特質 ・地域づくりとグリーンライフ活動 | 14 | ○ | | | ○地域で行われている祭礼や郷土芸能について学びます。 |
| | 12 | | 2学期末考査 (および返却・解説) | | 2 | ○ | ○ | |
| 3 学期 | 1 | 第3章 グリーンライフ活動 | ・都市と農山村の共生・対流にみるグリーンライフ活動 ・グリーン・ツーリズムの取り組み ・農林業体験 | 10 | ○ | | | ○農業・農村体験の企画と指導に必要な知識を学びます。 ○農業・農村の総合的な活用方法を学び、次年度のグリーン・ツーリズムの企画につなげます。 |
| | 2 | | 3学期末考査 (および返却・解説) | | 2 | ○ | ○ | |

計 70時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

| 評価は次の観点から行います。 | | | |
|----------------|--|--|--|
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の観点 | 農村や農業の持つ資源や役割・機能に関する知識を身につけ、多面的な機能を活用した活動を理解している。地元の資源を活用する方法を身につけることができる。 | 農業、農村の持つ魅力を再発見し、対人サービスとの関連を考察し、課題を適切に判断し、課題の解決を図るためのアイデアを提案することができる。 | 農業の多面的機能や交流・余暇活動に興味・関心を持ち、課題の解決を図るための具体的な活動計画を作成することができる。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査 ・ 学習課題レポート などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査 ・ 学習課題レポート などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査 ・ 学習課題レポート ・ 課題に取り組む態度 などから、評価します。 |

4 課題・提出物等

- ・ 学習課題レポートは、地域資源を活用した商品開発（企画・計画の立案）、広報・宣伝活動（ポスター作成、POP作成、WEBデザインなど）をテーマとして取り組みます。

5 担当者からの一言

グリーンライフは地域の人々と関わり、地域について学ぶ授業です。また「おもてなしの心」を大切にした対人サービスについても学びます。社会に出ても恥ずかしくない「マナー」や「コミュニケーション能力」についても学びますので普段の授業から正しい服装、言葉遣い、態度を心掛けてください。

| | | | | | |
|--------|-----------|-----|-----|---------|--------------------|
| 教科(科目) | 草花 | 単位数 | 4単位 | 学年(コース) | 3学年環境科学科 草花園芸専攻 |
| 使用教科書 | 「草花」 実教出版 | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | |

1 学習目標

| |
|--|
| <p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、草花の生産と経営に必要な資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> |
|--|

2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|---------|---|------------------------------------|---|----|--------|---|---|--|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 1 | 4 | 第7章花壇用草花生産 1 花壇草花生産の特色 | ①花壇用草花生産の経営 ②花壇用草花の種類 ③花壇用草花の栽培と商品化 | 20 | ○ | ○ | ○ | 主な実習内容 ・ほ場での観察と実習 ・花壇用草花の管理・販売 ・シクラメン管理実習 |
| | 5 | | | | | | | |
| | 1学期中間考査 | | | | | | | |
| | 6 | 3 花壇用草花の栽培 (続き) | ①ペチュニア ④ベゴニア ⑦その他の花壇用草花 | 24 | | | | |
| 7 | 第6章 鉢もの生産 1 鉢もの生産の特色 2 鉢ものの生産資材と商品化技術 | | | | | | | |
| 1学期期末考査 | | ○ | ○ | | | | | |
| 2 | 8 | 3花鉢もの | ①花鉢ものの種類と特性 ②シクラメン | 32 | ○ | ○ | ○ | ・ほ場での観察と実習 ・シクラメン管理実習 |
| | 9 | 第7章花壇用草花生産 3 花壇用草花の栽培 (続き) | | | | | | |
| | 10 | | ②パンジー・ビオラ ③ハボタン ⑤プリムラ類 | | | | | |
| | 2学期中間考査 | | ○ | ○ | | | | |
| | 11 | 第5章切り花生産 1 切り花生産の特徴 5 球根の切り花 | ①球根切り花の種類と特性 ③チューリップ | 28 | ○ | ○ | ○ | |
| 12 | 第6章鉢もの生産 3花鉢もの(続き) | ⑥プリムラ類 ⑧シネリア (サイネリア) | | | | | | |
| 2学期期末考査 | | ○ | ○ | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------|---|--------------------------------|------------------------------|----|---|---|---|------------|
| 3 | 1 | 3花鉢もの(続き) | ⑨その他の花鉢もの | 36 | ○ | ○ | ○ | ・ほ場での観察と実習 |
| | 2 | 第4章草花の特徴と栽培技術 4生産施設と栽培環境の調整 | ①施設の機能・構造とその利用 ②環境調節設備の利用 | | | | | |
| 学年末考査 | | | | | ○ | ○ | | |

計140時間(50分授業)

3 評価規準と評価方法

| | | | |
|-------|---|---|--|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の観点 | 草花の繁殖、栽培管理など草花に関する基本的な知識や技術を習得する。 | 草花の繁殖や栽培管理などについて思考を深め、それぞれの課題を適切に判断するとともに、合理的に解決し、表現する能力を身につけている。 | 草花の繁殖、栽培管理、利用などに興味や関心を持ち、草花に関する知識、技術の習得に意欲的に取り組むとともに、自ら積極的に取り組む態度を身につけている。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポート等の取り組み状況・内容確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポート等の取り組み状況・内容確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・レポートなどの取り組み状況・内容確認 ・ノートの記事 などから、評価します。 |

4 課題・提出物等

- ・ レポートや課題の作成・提出
- ・ ノート記述・提出
- ・

5 担当者からの一言

草花の栽培について全般的に学習し、基本的な知識を持ち、実践できるまでを目標とします。基本的な知識・技術を身につけるため、シクラメンを中心とした用土作りや各種栽培管理、販売までを一貫して学習します。

| | | | | | |
|--------|------------|-----|-----|---------|---------|
| 教科(科目) | 農業 (生物活用) | 単位数 | 3単位 | 学年(コース) | 3学年草花園芸 |
| 使用教科書 | 「生物活用」実教出版 | | | | |
| 副教材等 | | | | | |

1 学習目標

| |
|--|
| <p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、園芸作物の活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1)生物活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)生物活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3)生物活用について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> |
|--|

2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|-----|----|-----------------------|--|----|--------|---|---|---|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 一学期 | 4 | 園芸作物の栽培と活用 | 室内園芸装飾とは ・園芸装飾技能に必要な基礎知識の習得 ・室内環境条件と植物 | 18 | ○ | ○ | ○ | 主な実習内容 ・園芸装飾実技実習 ・観葉植物の管理および植え替え |
| | 5 | 中間考査 | | | | ○ | ○ | |
| | 6 | 園芸作物の栽培と活用 | ・室内園芸装飾とは(続き) ・室内環境条件と植物(続き) ・地域緑化,都市緑化 ・野菜・ハーブの栽培と活用 | 21 | ○ | ○ | ○ | ・園芸装飾実技実習 ・黒崎花壇の植え込み ・観葉植物の繁殖、管理 ・果菜類、根菜類の栽培 |
| | 7 | 期末考査 | | | | ○ | ○ | |
| 二学期 | 8 | 園芸作物の栽培と活用 | ・花壇の活用と管理 ・室内環境条件と植物 (続き) | 24 | | | | ・花壇苗管理 ・観葉植物の鉢あげ ・秋野菜の活用方法や貯蔵方法の学習 |
| | 9 | | 野菜・ハーブの栽培と活用 (続き) ・室内園芸装飾の活用 | | ○ | ○ | ○ | ・こけ玉盆栽の準備、計画 |
| | 10 | 中間考査 | | | | ○ | ○ | |
| | 11 | 園芸作物の栽培と活用 生物活用の実践 | ・室内園芸装飾の活用 (続き) ・交流活動の実際 ・活動の振り返り | 21 | ○ | ○ | ○ | ・こけ玉盆栽の作成 ・文化祭の販売、展示企画、運営 |
| | 12 | 期末考査 | | | | ○ | ○ | |
| 三学期 | | 生物活用の実践(続き) | ・活動のまとめ | 21 | ○ | ○ | ○ | ・草花、観葉植物の管理 ・野菜の貯蔵と活用について考える |
| | | 園芸作物の栽培と活用 | ・野菜・ハーブの栽培と活用 | | | | | |
| | | 学年末考査 | | | 70 | ○ | ○ | |

計時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

| | | | |
|-------|---|---|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の観点 | 園芸作物の繁殖、栽培管理など園芸作物に関する基本的な知識や技術を身につけている。 交流活動やその事例を通して、園芸活動が生活を豊かにしていることを理解している。 | 園芸作物の栽培や管理に関して思考を深め、それぞれの課題を適切に判断するとともに、合理的に解決し、表現する能力を身につけている。 | 園芸作物の生産性や品質向上のために自ら考えて取り組むことができる。 園芸活動を活用した交流活動など園芸作物の活用に関心をもち、意欲的に取り組むことができる。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポートなどの記述状況や内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポートなどの記述状況や内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票の分析 ・学習状況の観察 ・レポートなどの記述状況や内容の確認 などから、評価します。 |

※ 領域ごとの授業時数合計

| | | | |
|-----------------|------------------------|-------------------|-------------------|
| 領域ごとの 授業時数合計 | A 「話すこと・聞くこと」 25 時間 | B 「書くこと」 30 時間 | C 「読むこと」 15 時間 |
|-----------------|------------------------|-------------------|-------------------|

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

4 課題・提出物等

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ レポート・課題の作成、提出 ・ ノートの記述、提出 ・ 作品の作成提出 |
|---|

5 担当者からの一言

| |
|--|
| <p>園芸作物の活用方法について、その特性や栽培技術、活用を体験的に学習します。さらに室内園芸装飾士や外部企業との花壇作成などの学習を通して、園芸作物の活用に必要な知識と技術を身につけます。植物や動物を効果的に活用することは、私たちの生活の質の向上や健康の改善の向上に必要であることを理解していきましょう。室内園芸装飾試験は受験料がかかります。</p> |
|--|

| | | | | | |
|--------|----------|-----|-----|---------|------------|
| 教科(科目) | 総合実習 | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 3学年 草花園芸専攻 |
| 使用教科書 | 実教出版「草花」 | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | |

1 学習目標

| |
|--|
| <p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> |
|--|

2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|----|----|---------------|---------------------------------|----|--------|---|---|--|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 1 | 4 | 花壇用苗物・鉢花の生産管理 | 花壇用苗物のポット上げ | 26 | ○ | ○ | ○ | 主な実習内容 ・花壇苗生産・管理 ・シクラメン生産・管理 ・草花販売 ・寄せ植え体験講座 |
| | 5 | 鉢花の生産計画作成 | 鉢花の生産管理 鉢花の播種・育苗 | | | | | |
| | 6 | 鉢花の活用、鉢花の生産 | 鉢花のポット上げ・鉢上げ 鉢花の販売 | | | | | |
| | 7 | 草花の活用 | プランターへの植え込み・設置 鉢花の品質管理・販売・出荷 | | | | | |
| | | 1 学期学年末考査 | | | ○ | ○ | | |
| 2 | 8 | 鉢花の生産管理 | 鉢花の生産管理 | 30 | ○ | ○ | ○ | 主な実習内容 ・シクラメン生産・管理 ・鉢花生産・管理 ・草花販売 |
| | 9 | | 秋・冬用草花の播種・育苗 | | | | | |
| | 10 | | 高温期の草花の生産管理 | | | | | |
| | 11 | | 秋・冬用草花の品質管理と販売・出荷 | | | | | |
| | | 2 学期期末考査 | | | ○ | ○ | | |
| | 1 | 鉢花の生産管理 | 鉢花の生産管理 | 14 | ○ | ○ | ○ | 主な実習内容 ・鉢花生産・管理 ・草花販売 |
| | 2 | 施設の活用 | 春用草花の播種・育苗 | | | | | |
| | | 花壇用草花の生産管理 | 3年間の学習のまとめ | | | | | |
| | | まとめ | | | | | | |
| | | 学年末考査 | | | | | | |

計 70時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

| | | | |
|-------|---|--|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の観点 | 草花の生態を理解しようとしている。各実習の目的と理由を理解し、その方法・技術を身につけようとしている。 | 草花の生理・生態について正しく理解し、それに伴う管理技術のポイントを判断できる。またその判断を相手に伝えようとしている。 | 草花の生態や管理について興味関心を持ち、主体的に調べ、また実習に意欲的に取り組む姿勢が見られる。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実習での成果 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言 ・レポートの作成 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・実習での発言や取り組み態度 ・効率的・精確な実習 ・レポートの提出状況 などから、評価します。 |

4 課題・提出物等

・レポート、課題の作成・提出

5 担当者からの一言

長期休業中の実習も行います。意欲的に授業に参加し、積極的に学習成果を外部へ発信することで、確実に学習効果が上がると思います。そんな姿勢で授業に臨んでほしいと思っています。

| | | | | | |
|--------|-----------|-----|-----|---------|-------------|
| 教科(科目) | 農業(草花) | 単位数 | 3単位 | 学年(コース) | 3学年フラワーデザイン |
| 使用教科書 | 「草花」 実教出版 | | | | |
| 副教材等 | | | | | |

1 学習目標

| |
|--|
| <p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、草花の生産と経営に必要な資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> |
|--|

2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|------|------|--|-------------------------------------|----|--------|---|---|---|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 一学期 | 4 | 草花の特徴と栽培技術 | 草花の生育と栽培技術 | 18 | ○ | ○ | ○ | 堆肥・肥料・石灰散布、畝立て、マルチ 採花・花組・販売 挿し芽・定植、栽培管理 周辺地域への販売 |
| | | 宿根草の採花・花組・販売 (ガーベラ・カーネーション) | 宿根草・春蒔き一年草の栽培管理から採花・販売までの一連の実習を行なう。 | | | | | |
| | 5 | 春蒔き一年草の栽培管理 (アスター・ベニバナ、ヒマワリ) | 定植の準備 苗の定植 | | | | | |
| | 中間考査 | | | | | | | |
| 一学期 | 6 | 草花の特徴と栽培技術 切り花生産 | 生産施設と栽培環境の調節 切り花生産の特色 | 12 | ○ | ○ | ○ | 摘芯・摘蕾・芽かき・下葉掻き・追肥 |
| | | 宿根草の栽培管理(キク) 球根類の掘取り(アイリス) | キクの品質管理技術 圃場管理技術 | | | | | |
| | | 宿根草の過繁茂対策技術 | | | | | | |
| 期末考査 | | | | | | | | |
| 一学期 | 7 | 成長調整剤の使用と防除について | 草丈の伸長促進や抑制の必要性について対象植物と照らし合わせながら学ぶ。 | 9 | ○ | ○ | ○ | 採花・花組・品質保持剤 |
| | | | | | | | | |
| 二学期 | 9 | 切り花生産 | 切り花の品質保持 1・2年草の切り花 | 24 | ○ | ○ | ○ | 栽培管理から販売 |
| | 10 | 秋・寒キクの栽培管理技術 球根類の掘取り (ユリ・グラジオラス) | 摘芯・摘蕾・芽かきの必要性 球根の貯蔵管理技術 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|---------|---|--|----|---|---|---|-------------------|
| 三 学 期 | | | | | | | | |
| | 中 間 考 査 | | | | | | | |
| | 11 | 切り花生産 | 宿根草の切り花 球根の切り花 | 12 | ○ | ○ | ○ | 球根類の採花 施設の防寒対策 |
| | 期 末 考 査 | | | | | | | |
| | 12 | 切り花生産 | 花木の切り花 | 9 | ○ | ○ | ○ | |
| | 1 | 鉢もの生産 | 鉢もの生産の特色 鉢ものの生産資材と商品化技術 生産と流通の改善 | 21 | ○ | ○ | ○ | |
| 2 | 草花経営の改善 | これまでの学習を基に、栽培 技術、作業体系、費用、流通、 施設について理解し、一貫体 系を改善する能力と態度を養 う。 | | | | | | |
| 学 年 末 考 査 | | | | | | | | |

計105時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

| | | | |
|-----------|---|---|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の 観点 | 切花栽培に対する知識・技術を身に 付けようとしているか。 | 草花を観察し、自然分類や園芸的分 類の違いによる時期や管理の違い を身に付けようとしているか。 | 草花を通じて積極的に他者と関わり、 進んで実習に取り組んでいる か。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・実習での成果 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言 ・レポートの作成 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・授業での発言や取り組み態度 ・実習での効率的な取り組み態度 ・ノートの提出状況 などから、評価します。 |

4 課題・提出物等

- ・ノートの記入・提出
- ・レポート・課題の作成・提出
- ・

5 担当者からの一言

2学年で学習してきた基本的な栽培学習を踏まえ、各植物の特性に応じた栽培管理の理論と技術を学ぶ。更に高品質な切り花の生産と販売技術を習得する。

(担当:)

| | | | | | |
|--------|------------|-----|-----|---------|-------------------------|
| 教科(科目) | 農業（生物活用） | 単位数 | 4単位 | 学年(コース) | 3学年 環境科学科 フラワーデザイン専攻 |
| 使用教科書 | 実教出版「生物活用」 | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | |

1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、園芸作物や社会動物の活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生物活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 生物活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 生物活用について生物の特性を活用し生活の質の向上につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|----|-----------------------|--------------------------------|--------------------------------------|----|--------|---|--------------------|----------------------------------|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 1 | | オリエンテーション | ・年間の授業計画、評価方法、施設や備品の使用に関するルール等を理解する。 | 1 | ○ | | | プリント(記述の確認) |
| | 4 | フラワー装飾技能検定3級についての説明 | フラワー装飾技能検定3級について知る | 18 | ○ | | | 基礎的技術の習得の点検 実習の様子(行動の確認) |
| | 5 | リボン(検定課題)の製作 ブートニア(検定課題)の製作 | リボンワーク技術の習得 ワイヤリング・テーピング技術の習得 | | ○ | ○ | ○ | レポート・プリント(記述の確認) |
| | | 定期考査(1学期中間) | | 1 | | | | |
| | 6 | 花束(検定課題)の製作 | スパイラル技術の習得 | 19 | ○ | ○ | ○ | 基礎的技術の習得の点検 実習の様子(行動の確認) |
| 7 | バスケットアレンジメント(検定課題)の製作 | ファンデーションワーク・ラウンドアレンジメント製作技術の習得 | | ○ | ○ | ○ | レポート・演習プリント(記述の確認) | |
| | | 定期考査(1学期末) | | 1 | | | | |
| | | フラワー装飾の基礎知識(検定筆記試験対策)の学習 | フラワー装飾に関する基礎的な知識の習得 | 9 | ○ | ○ | | 小テストによる理解の確認 |
| 2 | 8 | 野菜・ハーブの栽培 | 管理作業、収穫等の体験 | 8 | ○ | ○ | ○ | 基礎的技術の習得の点検 実習の様子(行動の確認) |
| | 9 | 野菜・ハーブの活用 | 収穫したハーブや野菜を活用する料理、ハーブティーなど | | ○ | ○ | ○ | レポート・プリント(記述の確認) |
| | 10 | フラワーアレンジメント製作の基礎知識 | フラワーアレンジメント製作に関する基礎的な知識の習得 | 4 | ○ | ○ | | |
| | | フラワーアレンジメントの製作 | フラワーアレンジメント作品の立案・製作を行い文化祭で展示をする。 | 10 | ○ | ○ | ○ | 実習の様子(行動の確認) レポート・プリント(記述の確認) |
| | | 定期考査(2学期中間) | | 1 | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|----|--------------------------------------|---|-----------------|------------|------------|------------|---|
| | 11 | ハーブの活用 | ハーブの活用をする ハーブティー、サシェ、染色など | 25 | ○ | ○ | ○ | 基礎的技術の習得の点検 実習の様子(行動の確認) |
| | 12 | フラワーアレンジメントの製作 定期考査(2学期末) 園芸療法 | 行事のアレンジメントの製作(クリスマス) 園芸療法について基本的なことを知る | 2 1 9 | ○ ○ | ○ ○ | ○ ○ | レポート・プリント(記述の確認) 基礎的知識の習得の点検 レポート・プリント(記述の確認) |
| | 1 | 園芸療法 | 園芸療法について基本的なことを知る | 26 | ○ | ○ | | 基礎的知識の習得の点検 レポート・プリント(記述の確認) |
| | 2 | 定期考査(学年末) 1年間のまとめ | レポートの整理 | 1 4 | | | ○ ○ | |
| | 3 | | | | | | | |

計 140時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

| | | | |
|-------|---|---|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の観点 | ・私たちの暮らしと植物および動物の関係について興味・関心を持ち、これらの利用や活用について基礎的な知識と技術を身につけている。 | ・植物や動物の活用が、人間の生活の質を向上させることができることを理解し、生物の活用がもたらす人間への効用について思考を深める。 | ・植物や動物の活用の重要性や活用がもたらす人間への効用について興味・関心を持ち、人間と生物との関係について探求しようとしている。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。 |

4 課題・提出物等

- ・ プリントやレポート、作品などの提出物があります。

5 担当者からの一言

「生物活用」の授業では、植物や動物の活用について実践的に学び、基礎的な知識や技術を身につけます。これからの生活の中で、植物や動物を効果的に活用することで、私たちの生活が潤い、より健康的で、幸せなものになるよう目指していきましょう。

| | | | | | |
|--------|----------|-----|-----|---------|-------------|
| 教科(科目) | 農業（総合実習） | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 3学年フラワーデザイン |
| 使用教科書 | | | | | |
| 副教材等 | | | | | |

1 学習目標

| |
|--|
| <p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、草花の生産改善を図る実践的な資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 草花を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 草花に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 草花の生産と経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> |
|--|

2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点 | | | 備考 |
|-----|---------|----------------------------|---|----|-------|---|---|---|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 一学期 | 4 | 春まき1年草播種、キク挿し芽 切り花の定植準備 | アスター・ヒマワリ等の播種、秋ギク・寒ギクの挿し芽 施肥、耕耘、畝成形、マルチ、 土壌消毒 | 26 | ○ | ○ | ○ | 堆肥・肥料・石灰散布、 畝立て、マルチ 採花・花組・販売 挿し芽・定植、栽培管理 周辺地域への販売 |
| | 5 | 春まき1年草、夏ギク等の定植 栽培管理 | アスター苗、夏ギク、トルコギキョウ等の定植 追肥、灌水、摘芯、整枝、摘蕾、 病虫害防除 | | | | | |
| | 6 | 秋ギク等の定植 春まき1年草等の採花、販売 | 秋ギク等の定植 ヒマワリ・スターチス等の採花・ 花組、販売 | | | | | |
| | 期 末 考 査 | | | | | | | |
| | 7 | 寒ギクの定植 | 寒輪ギク、寒スプレーギクの定植 | | | | | |
| 二学期 | 8 | 春まき1年草、夏ギクの採花・ 花組、販売 | アスター、夏輪ギク、夏小ギクの採花・ 花組、販売 | 30 | ○ | ○ | ○ | 栽培管理から販売 冷蔵庫と品質保持剤の活用 |
| | 9 | 秋まき1年草の播種 | ストック、キンギョソウ、スターチス等の播種 | | | | | |
| | 10 | ユリ等の球根堀上げ | ユリ、グラジオラス等の球根の堀上げ・ 保管・低温処理 | | | | | |
| | 11 | 秋まき1年草の定植 | ストック、キンギョソウ、スターチス等の定植 | | | | | |
| | 期 末 考 査 | | | | | | | |
| | 12 | 球根類の定植 | チューリップ、フリージア、ダッチアイリス等の定植。 夏ギク挿し穂1次 | 14 | ○ | ○ | ○ | ハウス施設の管理と運用 |
| 1 | 栽培管理 | 追肥、灌水、保温シート、病 | | | | | | |

| | | | | | |
|--------|-----------|-----|-----|---------|-----|
| 教科(科目) | 学科外選択「草花」 | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 3学年 |
| 使用教科書 | 「草花」実教出版 | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | |

1 学習目標

草花の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、草花の特性や栽培環境を理解させるとともに、合理的な草花管理と生産性の向上を図る能力と態度を養う。

2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点 | | | 備考 |
|---------|---------|--|--|----|-------|---|---|---|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 1 | 4 | 草花生産と消費の動向 1 草花園芸の特徴 | ①草花の生産と経営 ②草花の種類 ③草花の生産形態 | 12 | ○ | ○ | ○ | ・ほ場での観察と実習 ・播種実習 |
| | 5 | | | | | | | |
| | 1学期中間考査 | | | | | ○ | ○ | |
| | 6 | 草花の特徴と栽培技術 1 草花の生育と環境 2 品種改良と繁殖 | ①草花の一生 ②根の生長と養水分の吸収 ③草花の繁殖方法 | 14 | ○ | ○ | ○ | ・ほ場での観察と実習 ・播種および栄養繁殖実習(さし芽) ・花壇苗管理実習 |
| | 7 | | | | | | | |
| 1学期期末考査 | | | | | ○ | ○ | | |
| 2 | 8 | 鉢もの生産 1 鉢もの生産の特色 2 鉢ものの生産資材と商品 化技術 | ④種子繁殖 ⑤栄養繁殖 ①鉢もの生産の経営 ②栽培管理の特色 ①鉢の種類 | 16 | ○ | ○ | ○ | ・ほ場での観察と実習 ・シクラメン管理実習 ・販売実習 |
| | 9 | | | | | | | |
| | 10 | | | | | | | |
| | 2学期中間考査 | | | | | ○ | ○ | |
| | 11 | 3花鉢もの | ②用土 ③水と肥料 ①鉢ものの種類と特性 ②シクラメン | 14 | ○ | ○ | ○ | ・ほ場での観察と実習 ・鉢花管理実習 ・販売実習 |
| 12 | | | | | | | | |
| 2学期期末考査 | | | | | ○ | ○ | | |
| 3 | 1 | 3花鉢もの(続き) 第4章草花の特徴と栽培技術 4 生産施設と栽培環境の調節 | ⑥プリムラ類 ①施設の機能・構造とその利用 | 14 | ○ | ○ | ○ | ・ほ場での観察と実習 |
| | 2 | | | | | | | |
| | 学年末考査 | | | | | ○ | ○ | |

計 70時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

| 評価は次の観点から行います。 | | | |
|----------------|--|--|--|
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の観点 | 草花の特性を理解できる。様々な実習の目的や方法についてしっかり理解している。 | 草花の生育特性について正しく理解し、草花の機能や役割について思考を深めている。 | 草花を通じて積極的に他者と関わり、進んで実習に取り組んでいる |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実習での成果 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言 ・レポートの作成 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・授業での発言や取り組み態度 ・実習での取り組み態度 ・レポートの提出状況 などから、評価します。 |

4 課題・提出物等

- ・ノートの記事・提出
- ・レポート・課題の作成・提出

5 担当者からの一言

草花について全般的に学習あい、基本的な知識を持ち、実践できるまでを目標とします。基本的な知識を習得するため草花を教材とし、播種から裁判管理、販売や活用までを各種座学や実習を通じ一貫して学習します。

| | | | | | |
|--------|------------|-----|-----|-------------|--------------------|
| 教科(科目) | 農業 (農業経営) | 単位数 | 2単位 | 学年 (コース) | 3学年 生物資源科・環境科学科 |
| 使用教科書 | 実教出版「農業経営」 | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | |

1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業経営とマーケティングに必要な資質・能力の育成を目指す。

(1) 農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

(3) 農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるように自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働性に取り組む態度を養う。

2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|----|-------------|-----------------------|----------------------|----|--------|---|---|--|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 1 | 4 | 第1章 | ・世界の農業の現状を理解する。 | 11 | ○ | ○ | | レポート・プリント (記述の確認) 座学の様子 (行動の確認) |
| | 5 | 農業の動向と農業経営 | ・日本の農業の現状を理解する。 | | ○ | ○ | | |
| | | 1 日本と世界の農業 | ・さまざまな農業経営を学ぶ。 | | ○ | ○ | | |
| | 2 農業経営の動向 | ・こんにちの農業経営を理解する。 | | | | | | |
| | | 3 食料消費の動向と社会 経済環境 | ・食料の需要と貿易を学ぶ。 | | | ○ | | |
| | | 4 食料・農業・農業政策 と関係法規 | ・食料、農業、農業政策について学ぶ。 | | ○ | ○ | | |
| | | 定期考査(1学期中間) | | 1 | | | | |
| 1 | 6 | 第2章 | ・マネジメントの考え方を学ぶ。 | 16 | ○ | ○ | | レポート・プリント (記述の確認) 座学の様子 (行動の確認) |
| | 7 | 農業のマネジメント | ・農業経営の目標を学ぶ。 | | ○ | ○ | | |
| | | 1 農業マネジメント | ・単一経営と多角経営を学ぶ。 | | | | | |
| | 2 生産のマネジメント | ・集約化と規模拡大を学ぶ。 | | | | | | |
| | | 3 組織のマネジメント | ・農業経営の集团的取り組みを学ぶ。 | | ○ | ○ | | |
| | | 定期考査(1学期期末) | | 1 | | | | |
| 2 | 8 | 4 会計によるマネジメント | ・会計と簿記について学ぶ。 | 16 | ○ | ○ | | レポート・プリント (記述の確認) 座学の様子 (行動の確認) |
| | 5 | リスクのマネジメント | ・資産、負債、純資産と貸借対照表を学ぶ。 | | ○ | ○ | | |
| | 9 | 第3章 | ・収益と費用と損益計算書を学ぶ。 | | ○ | ○ | | |
| 10 | 農業のマーケティング | ・マーケティングの導入について学ぶ。 | | | | | | |
| | | 1 農業マーケティングの概要 | ・農産物の市場と流通について学ぶ。 | | ○ | ○ | | |
| | | 2 農業マーケティング戦略 | ・農業のマーケティング活動を学ぶ。 | | ○ | ○ | | |
| | | 定期考査(2学期中間) | | 1 | | | | |
| 2 | 11 | 3 農産物のブランド化 | ・農産物のブランドの意味とブランド化。 | 15 | ○ | ○ | | レポート・プリント (記述の確認) 座学の様子 (行動の確認) |
| | 12 | 第4章 | ・市場調査の内容と手順を学ぶ。 | | ○ | ○ | | |
| | | 農業経営のマーケティング活動 | ・環境分析の内容と手順を学ぶ。 | | | | | |
| | 1 市場調査と環境分析 | ・6次産業化の茶業経営にみる市場調査。 | ○ | | ○ | | | |
| | | 2 市場調査・環境分析の進め方 | ・環境分析の作業の実際について学ぶ。 | | ○ | ○ | | |
| | | 定期考査(2学期期末) | ・外部環境、内部環境の検討について学ぶ | | ○ | ○ | | |
| | | 定期考査(2学期期末) | | 1 | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|--|--|---|---|---|---|---------------------------------|
| 3 | 1 | 3 農業経営の設計と診断 6 環境に配慮した栽培 実践(第7章) | <ul style="list-style-type: none"> ・農業経営設計とはを学ぶ。 ・農業経営診断の進め方について学ぶ。 ・経営診断の指標について学ぶ。 | 7 | ○ | ○ | ○ | レポート・プリント (記述の確認) (行動の確認) |
| | | | | 1 | | | | |

計 70時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

| | | | |
|-----------|--|--|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の 観点 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようと努力している。 | 農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ適切に判断できるようにしている。 | 農業経営に応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組めるよう努力している。 |
| 評価 方法 | 以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の分析 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、授業での活動や取り組みを観察 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。 |

4 課題・提出物等

- ・プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・長期休業中の課題等があります。

5 担当者からの一言

この科目では、農業経営の現状や今日的な課題、農産物などの流通、販売を中心とした食料などの需要に関する社会的な役割等について学習します。また、消費者ニーズの多様化、農業経営のグローバル化や法人化、六次産業化などについて知識を深め、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けます。

令和6年度シラバス（農業）

学番25 新潟県立新発田農業高等学校

| | | | | | |
|--------|------------|-----|-----|---------|-------------------------|
| 教科(科目) | 農業（造園計画） | 単位数 | 3単位 | 学年(コース) | 3学年 環境科学科 地域環境デザイン専攻 |
| 使用教科書 | 造園計画（実教出版） | | | | |
| 副教材等 | 配付プリント | | | | |

1 学習目標

造園の計画・設計に必要な知識と技術を習得させ、緑地のもつ機能を理解させるとともに、目的や環境に応じた造園空間を創造する能力と態度を育てる。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|----|----|--|--|--------|--------|---|---|---|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 1 | 4 | 造園計画の意義と役割 ・地球環境と造園 ・生活環境と緑地環境 | 人と自然が共生する環境を知り、それに基づいて造成・管理するための基礎を学習する。 | 30 | ○ | | ○ | |
| | 5 | ・造園計画と造園空間 定期考査（1学期中間） | | | | | | |
| | 6 | 環境と造園の様式 ・我が国の環境と造園様式 ・外国の環境と造園様式 定期考査（1学期期末） | 日本と外国の造園様式及びそれを取り巻く自然環境や文化的・社会的環境について学習する。 | ○ ○ | ○ | ○ | | |
| | 7 | 造園技能検定について | 造園技能検定の内容 | 9 | ○ | ○ | ○ | |
| 2 | 8 | 造園デザインと造園製図 ・造園デザイン | 造園デザインや造園設計での図面の描き方について | 39 | ○ | ○ | ○ | 坪庭、ポケットパークをモデルにする。 紙や粘土及び現場等を利用して、創造実習を行う。 |
| | 9 | ・造園製図 造園の計画・設計 | 人間生活に密接に関わる住宅庭園、学校等について学習する。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | 10 | ・住宅庭園 定期考査（2学期中間） | | | ○ | ○ | ○ | |
| | 11 | ・屋上・壁面緑化 ・室内緑化 | 都市緑地や農村緑地等について学習し、公園・緑地の役割と機能について知る。 | 13 | ○ | ○ | ○ | 手描き製図 |
| | 12 | ・その他の造園 公園、緑地の計画・設計 | | | | | | |
| 3 | 1 | 造園計画実践 | まとめ学習 | 14 | ○ | ○ | ○ | 一年間の復習及びまとめとしてコンピュータを利用し成果発表をする。 |
| | 2 | 「造園計画」とプロジェクト学習 | | | | | | |
| | 3 | 学年末考査 | | | | | | |

計 105時間（50分授業）

3 評価規準と評価方法

| 評価は次の観点から行います。 | | | |
|----------------|--|--|--|
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の観点 | <ul style="list-style-type: none"> 造園計画・設計の特性を理解し、目的に沿った製図実習等を行っている。 授業内容を応用し、計画・設計作業に対し、しっかりと技術が身についている。 | <ul style="list-style-type: none"> 植生材料の生態を理解し、計画・設計の正しい判断ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 植生材料の生態を理解し、計画・設計の正しい判断ができる。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 定期考査の分析 授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 定期考査の分析 授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートや自己評価票などの分析 授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。 |

4 関連する検定、課題・提出物等

- 造園技能検定 造園施工管理技術検定 トレース技能検定 レタリング検定
- プリントやレポート、作品などの提出物があります。

5 担当者からのメッセージ

- ①指定の実習服、長靴等の着用を徹底するとともに、時間を厳守すること。
- ②季節的または天候により、授業内容に変更を生ずることがある。
- ③天候不良時(小雨)でも実習をすることがある。(雨具を個人で用意する。)
- ④樹木、庭園を通しての造園の美学、物づくりの楽しさ、素晴らしさを体験し、さらには緑の保全、地球規模の環境問題にも興味関心を発展させていくことを希望する。
- ⑤造園技術を合理的に学習するため、造園の施工、管理と緑化植物の育成、管理を並行して学習することがある。

令和6年度シラバス（農業）

学番25 新潟県立新発田農業高等学校

| | | | | | |
|--------|----------------|-----|-----|---------|-------------------------|
| 教科(科目) | 農業（造園施工管理） | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 3学年 環境科学科 地域環境デザイン専攻 |
| 使用教科書 | 造園施工管理（東京電機大学） | | | | |
| 副教材等 | 配付プリント | | | | |

1 学習目標

緑地環境や造園空間の機能と造園が果たす社会的な役割を理解し、必要な知識と技術を習得させ、造園の特質を理解させるとともに、合理的な施工や維持管理する能力と態度を育てる。

2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|---------|----|---------------------|---|----|---------------|---|------------------|--|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 1 学期 | 4 | 2 コンクリート工 | <ul style="list-style-type: none"> ・水景の施工・石積み等において欠かせないコンクリート工の施工技術について学習する。 ・水景施設や付属施設工事など給排水に関する学習をする。 | 21 | ○ | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ○造園樹木の掘取り、根巻き、移植実習 ○校地内樹木の剪定・刈り込み実習 |
| | 5 | 3 給排水工 | | | ○ | ○ | ○ | |
| | 6 | ◎施設施工管理 | (テスト返却、解答、復習) | | ○ | ○ | ○ | ○造園樹木の剪定、仕立て実習 |
| | 7 | 1 園路・広場工 2 水景施設工 | <ul style="list-style-type: none"> ・公園や庭園内における園路・広場の意義を理解し、その施工に関する内容を学習する。 ・庭園における水のありさまの表現を理解し、その表現を施工するための学習をする。 | | ○ | ○ | ○ | |
| 8 | | (テスト返却、解答、復習) | 5 | ○ | ○ | ○ | ○造園樹木の整枝、剪定技術の実習 | |
| 2 学期 | 9 | 3 庭園施設工 | <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な技術を身につけ、人々の要求に対応していける造園センスを磨くための学習をする。 | 30 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ○造園樹木の剪定、仕立て実習 ○造園樹木の雪吊り、冬囲い実習 |
| | 10 | 定期考査（2学期中間） | | | (テスト返却・解答・復習) | ○ | ○ | |
| | 11 | 4 公園施設工 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動施設や公園施設等において必要とされるものや規格等について学習する。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | 12 | 5 工作物の管理 6 景観の管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・各維持管理内容について学習する。 | | ○ | | ○ | |

| | | | | | | | | |
|-------------|---|--------------------------|---------------------------------|----|---|---|---|------------------------|
| | | ◎合理的な施工と管理 ◎造園施工管理の実践 | ・各種施工を行うための管理技術 や施工について学習する。 | | | | | |
| 3 学 期 | 1 | 学年末考査 | (テスト返却・解答・復習) | 14 | ○ | ○ | ○ | ○ロープワーク実習 ○道具の手入れ実習 |
| | 2 | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | |

計 70 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

| | | | |
|-----------|---|---|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の 観点 | ・造園施工管理について興味関心を持ち 学習に意欲的に取り組む姿勢が見られ る。 ・授業内容を応用し、計画・設計作業に対 し、しっかりと技術が身についている。 | ・植生材料の生態を理解し、計画・設 計の正しい判断ができる。 | ・植生材料の生態を理解し、計画・設 計の正しい判断ができる。 ・授業内容を応用し、施工・管理作業に対 し、しっかりと技術が身についている。 |
| 評価方 法 | 以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取 り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提 出物の内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取 り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提 出物の内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取 り組みを観察 ・演習プリントやレポートなどの提 出物の内容の確認 などから、評価します。 |

4 関連する検定、課題・提出物等

- ・造園技能検定 造園施工管理技術検定 トレース技能検定 レタリング検定
- ・プリントやレポートなどの提出物があります。

5 担当者からのメッセージ

- ①指定の実習服、長靴等の着用を徹底するとともに、時間を厳守すること。
- ②季節的または天候により、授業内容に変更を生ずることがある。
- ③天候不良時(小雨)でも実習をすることがある。(雨具を個人で用意する。)
- ④樹木、庭園を通しての造園の美学、物づくりの楽しさ、素晴らしさを体験し、さらには緑の保全、地球規模の環境問題にも興味関心を発展させていくことを希望する。
- ⑤造園技術を合理的に学習するため、造園の施工、管理と緑化植物の育成、管理を並行して学習することがある。

令和6年度シラバス（農業）

学番25 新潟県立新発田農業高等学校

| | | | | | |
|--------|----------|-----|-----|---------|-------------------------|
| 教科(科目) | 農業（造園植栽） | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 3学年 環境科学科 地域環境デザイン専攻 |
| 使用教科書 | 造園植栽（実教） | | | | |
| 副教材等 | 配付プリント | | | | |

1 学習目標

造園植栽について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるとともに、目的や環境に応じた合理的な植栽につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体かつ協働的に取り組む態度を育てる。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 | |
|---------|---|--|--|----|---|----|---|---|---|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | | |
| 1 学期 | 4 | 造園植栽の意義と役割 | <ul style="list-style-type: none"> 植栽の意義や役割を理解し、その特色や必要性を学び、植栽技術の習得を目指す。 | 21 | ○ | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ○花壇に使われる植物の調査を実施 ○造園樹木調査を実施 ○農業鑑定競技の出題範囲の樹木鑑定テスト実施 ○造園樹木の剪定、刈り込み実習 | |
| | 5 | <ul style="list-style-type: none"> 造園植栽の意義 造園植栽の特色と役割 植栽と風景 植栽に関わる課題 | | | ○ | ○ | ○ | | |
| | 6 | 造園植栽計画 <ul style="list-style-type: none"> 植栽と地域・風景の関連性 植物の特性と植栽計画 植栽のデザインに向けて 植栽の機能・効果と植栽構成 | | | ○ | ○ | ○ | | |
| | 7 | 定期考査（1学期中間） <ul style="list-style-type: none"> 植栽の具体的なデザイン 植栽基盤 草花の活用 | (テスト返却、解答、復習) <ul style="list-style-type: none"> 造園計画地とその周辺の相互機能の向上ができるようにするために必要な事柄を学習する。 | | | | | | |
| 2 学期 | 8 | 造園植栽施工 | (テスト返却、解答、復習) <ul style="list-style-type: none"> 植栽施工の設計から施工までの機能的かつバランスのとれた植栽を実現するために植物材料や施工法について学習する。 | 5 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ○農業鑑定競技の出題範囲の樹木鑑定テスト実施 | |
| | 9 | <ul style="list-style-type: none"> 造園植栽施工の組み立て 植栽基盤整備 | | | ○ | ○ | ○ | | |
| | 10 | <ul style="list-style-type: none"> 樹木の植栽施工 芝生・地被植物の植栽 草花類の植栽 | | | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 定期考査（2学期中間） | | | | | | | |
| | 11 | 造園植栽管理 <ul style="list-style-type: none"> 植栽管理の基本 樹木の管理 樹林の管理 芝生の管理 芝草以外の地被植物・草花の管理 | | | (テスト返却・解答・復習) <ul style="list-style-type: none"> 空間全体の構成や植栽の果たす機能及び自然と共生する快適で美しい植栽を目指す管理・育成について学習する。 | 30 | ○ | | ○ |
| 12 | <ul style="list-style-type: none"> 農薬の安全管理 | ○ | ○ | | | | | | |
| | | 定期考査（2学期期末） | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|---|---|---|----|---|---|---|----------------------------|
| | | | (テスト返却・解答・復習) | | | | | |
| 3 学 期 | 1 | 造園植物 ・造園植物の基本 ・造園植物と植生 ・造園植物の分類 ・造園樹木の形状 ・造園植物の繁殖と育成 | ・各種造園に使われる植物や植生を理解し必要とされる場合に合った植栽を目指す学習をする。 | 14 | ○ | ○ | ○ | ○ロープワーク実習 ○道具の手入れ実習 |
| | 2 | 学年末考査 | (テスト返却・解答・復習) | | | | | |
| | 3 | | | | | | | |

計 70 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

| | | | |
|-----------|---|---|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の 観点 | ・造園植栽について興味関心を持ち学習に意欲的に取り組む姿勢が見られる。 ・授業内容を応用し、しっかりと技術が身についている。 | ・植生材料の生態を理解し、計画・設計の正しい判断ができる。 | ・植生材料の生態を理解し、計画・設計の正しい判断ができる。 ・授業内容を応用し、造園植栽作業に対し、しっかりと技術が身についている。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。 |

4 関連する検定、課題・提出物等

- ・造園技能検定 造園施工管理技術検定 トレース技能検定 レタリング検定
- ・プリントやレポートなどの提出物があります。

5 担当者からのメッセージ

- ①指定の実習服、長靴等の着用を徹底するとともに、時間を厳守すること。
- ②季節的または天候により、授業内容に変更を生ずることがある。
- ③天候不良時(小雨)でも実習をすることがある。(雨具を個人で用意する。)
- ④樹木、庭園を通しての造園の美学、物づくりの楽しさ、素晴らしさを体験し、さらに
は緑の保全、地球規模の環境問題にも興味関心を発展させていくことを希望する。
- ⑤造園植栽を合理的に学習するため、造園の施工、管理と緑化植物の育成、管理を並行して学習することがある。

令和6年度シラバス（農業）

学番25 新潟県立新発田農業高等学校

| | | | | | |
|--------|------------|-----|-----|---------|---------------------------|
| 教科(科目) | 農業（造園計画） | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 3学年 作物 野菜 動物 食品化学 栄養化学 |
| 使用教科書 | 造園計画（実教出版） | | | | |
| 副教材等 | 配付プリント | | | | |

1 学習目標

造園の計画・設計に必要な知識と技術を習得させ、緑地のもつ機能を理解させるとともに、目的や環境に応じた造園空間を創造する能力と態度を育てる。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点 | | | 備考 |
|----|------------------|---|--|----|--------|---|---|---|
| | | | | | ※ 知 | 思 | 主 | |
| 1 | 4 | 造園計画の意義と役割 | 人と自然が共生する環境を知り、それに基づいて造成・管理するための基礎を学習する。 | 26 | ○ | ○ | ○ | |
| | 5 | ・地球環境と造園 ・生活環境と緑地環境 ・造園計画と造園空間 定期考査（1学期中間） | | | | | | |
| | 6 | 環境と造園の様式 ・我が国の環境と造園様式 | 日本の造園様式及びそれを取り巻く自然環境や文化的・社会的環境について学習する。 | | | | | |
| | 7 | 定期考査（1学期期末） | | | | | | |
| 2 | 8 | 造園デザインと造園製図 | 造園デザインや造園設計での図面の描き方について | 34 | ○ | ○ | ○ | 坪庭、ポケットパークをモデルにする。 紙や粘土及び現場等を利用して、創造実習を行う。 |
| | 9 | ・造園デザイン | | | | | | |
| | 10 | 造園の計画・設計 ・住宅庭園 | 人間生活に密接に関わる住宅庭園、学校等について学習する。 | | | | | |
| | 11 | ・屋上・壁面緑化 | 都市緑地や農村緑地等について学習し、公園・緑地の役割と機能について知る。 | | ○ | ○ | ○ | 手描き製図 各庭園のイメージ図の作製 |
| 12 | ・室内緑化 ・その他の造園 | | | | | | | |
| 3 | 1 | 公園、緑地の計画・設計 | まとめ学習 | | | | | |
| 2 | まとめ | | | | | | | |
| 3 | 学年末考査 | | | | | | | |

計 70時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

| 評価は次の観点から行います。 | | | |
|----------------|--|--|--|
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の観点 | <ul style="list-style-type: none"> 造園計画・設計の特性を理解し、目的に沿った製図実習等を行っている。 授業内容を応用し、計画・設計作業に対し、しっかりと技術が身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> 植生材料の生態を理解し、計画・設計の正しい判断ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 植生材料の生態を理解し、計画・設計の正しい判断ができる。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 定期考査の分析 授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 定期考査の分析 授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートや自己評価票などの分析 授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。 |

4 関連する検定、課題・提出物等

- 造園技能検定 造園施工管理技術検定 トレース技能検定 レタリング検定
- プリントやレポート、作品などの提出物があります。

5 担当者からのメッセージ

- ①実習の際、指定の実習服、長靴等の着用を徹底するとともに、時間を厳守すること。
- ②季節的または天候により、授業内容に変更を生ずることがある。
- ③天候不良時(小雨)でも実習をすることがある。(雨具を個人で用意する。)
- ④樹木、庭園を通しての造園の美学、物づくりの楽しさ、素晴らしさを体験し、さらには緑の保全、地球規模の環境問題にも興味関心を発展させていくことを希望する。
- ⑤造園に関する学習をするため、造園の施工、管理と緑化植物の育成、管理を並行して学習することがある。